

中級コースにおけるアクセント教育の実践報告

An Attempt to Improve Accents of Intermediate Japanese Learners

学習過程において最後まで習得が難しいと言われている日本語の高低アクセントであるが、最近では韻律に特化した音声教育・発音練習に関する教材に加え、オンライン教材も増えてきている。筆者が所属する大学では、それらを併用しながら、語種や品詞、拍数ごとで明らかになっているアクセントの法則やイントネーションを体系的に指導し、学習者の意識化と向上を図っている。

今回は中級コース（2年生）でのアクセント教育について報告する。中級は、ある程度の語彙力・文法力が付き、自分の身の回りのことが自分の言葉で言えるようになってきているレベルである。そして、初級のように、とにかく発話することだけに集中しがちな学習初期のレベルに比べ、意識する余裕がなかったアクセントにも目を向けられるようになってきた絶好の時期だと言える。そこで、春学期にアクセント習得に重点を置いた個人指導を開始し、週に一度40分程度のセッションを合計10回行った。学習者は各セッションで名詞（漢語）、動詞、複合名詞、外来語のアクセントの法則を、認識・理解し、知覚、再現、そして、会話の中で生成できるよう練習する。また、課題として録音してきた会話文やスピーチ等を、モデル音声と比較させ、分析し、自分の発音傾向に気付かせるようにした。その際、アクセントの法則に照らし合わせながら、自分の問題点について自己評価し、自己修正できるよう促した。

新しい試みとしては、学習者に「先生」として、クラスで5分ほど学習したアクセントの法則について「講義」してもらったことである。この他人に教えるという行動を通して、精緻化リハーサルを行わせ、法則の理解を深め、経験記憶として学習定着率の向上を目指した。本発表では、事前・事後聞き取りテストの結果から見えるアクセントの知覚学習効果、そして、事前・事後スピーチにおけるアクセントの改善の成果も合わせて実践報告し、更に現在開発中の初中級向けのオンライン教材についても触れたい。